


市長のタウンミーティング 大町地区

(敬称略)

	開催日時	平成29年8月23日(水) 19:00～21:00
	会場	大町公民館
	参加人数	43名
	開会挨拶 書記	大町地域振興会長 平内幸典 寺崎公人

市政への提案、意見

番号	地区名	項目	内容
1	大町	まちづくり	市庁舎を魚津駅舎と併設するならば、同時にガード下道路の幅員拡幅を実現してほしい。
2	大町	まちづくり	来年は米騒動発祥100周年だが、市として何か事業を考えているのであればお聞かせ願いたい。そしてできることなら恒久的な利用をしていきたい。
3	大町	まちづくり	高齢者の方もいろいろな場所で話をしたり近況を報告したりと気軽に「ただいま」をいう感覚で集える、そして併せてこどもたちも集ってこられるような場所の設置を考えているかお聞かせ願いたい
4	大町	まちづくり	中心市街地の活性化についての課題について、市の方向性を伺いたい。
5	大町	まちづくり	平成25年に発生した荒町、馬出町の火災の跡地がそのままになっている。市としてこの場所の利活用としての方策等を考えているのかどうかをお聞かせ願いたい
6	大町	子育て	滑川の児童館のように屋内で遊べる場所が欲しいという話を聞く。学校の跡地等を利用して子どもも老人も集えるような施設を作っていくのはいいことだと思う。
7	大町	教育環境	住吉小学校を建て替えるにあたり設計の段階で図書室が2階と3階に分断されるという話を知人から聞いたが、教育環境を考えて設計については工夫してほしい。
8	大町	教育環境	よつば小学校ができると運動会等の行事の際に駐車場が不足すると思うが、市としてどうしていくのか伺いたい。
9	大町	まちづくり	魚津では空家情報を出しているかどうか聞きたい。
10	大町	まちづくり	魚津市と滑川市の市民税について魚津は高いと聞いたことがあるが、実際はどうか教えてほしい。
11	大町	まちづくり	富山市では中心市街地に住むと補助金が出るがそういったことは考えていないか。

その他に7件のご意見あり

平成29年度 市長のタウンミーティング実施報告書

地区名	大町地区	日時	8月23日(水) 19時00分より 21時00分まで	参加者数	43名
会場名	大町公民館	司会	企画政策課 上田 哲也	書記	税務課 寺崎 公人
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画総務部長 川岸 勇一 企画政策課長 赤坂 光俊 ほか		地区からの 主な参加者	地域振興会長、市議、区長等	

1. あいさつ

地域振興会長 平内幸典

2. 市長談話

市長 村椿 晃

魚津市の現状、「子育て」「教育環境」「まちづくり」について

- 人口について
 - ・魚津市の現状
- 子育てについて
 - ・安心して産み育てる環境の整備
 - ・仕事と家庭の両立等
 - ・経済的負担の軽減
- 教育環境について
 - ・小学校英語教育の推進
 - ・教育用ICT環境整備
 - ・通学の安全、安心対策
- まちづくりについて
 - ・中心市街地の活性化
 - ・定住、空家対策
 - ・道路、公園維持管理
- 災害に強いまちづくりについて
 - ・ハード対策
 - ・情報伝達体制の強化
 - ・防災力の向上

3. 意見交換（地区からの振興策等の提言・提案等について）

○市庁舎の移転、サンプラザ付近ガード下道路の幅員拡幅について（まちづくり）

市庁舎を新設する場合には、魚津駅併設の案があるということを聞いている。
魚津市では以前サンプラザ横からカーバイド引込み線路の都市計画道路の整備計画を検討され、道路の高さが同じとすれば駅ホームを1メートルから2メートル嵩上げすればガードの高さが確保され、道路の幅員拡幅も可能との結果を得ていると聞いている。
もし駅舎併設をするのであれば、併せて同時にガード下道路の幅員拡幅を実現していただきたい。

（村椿市長）

市庁舎については、市役所の中でプロジェクトチームを編成して、場所ではなく必要な機能、規模を中心に先進例を含めて検討している段階です。その後、どこでこういった形で整備していくかということの検討に移っていく予定です。

ガード下のボックス等技術的な面については確認が必要ですが、1時間あたり50ミリ程度の雨量の場合に冠水を防ぐといった観点で、何が効率的か、そしてどのような方法がとれるかということをしっかり考えていきたいと思えます。

また、ガード下の冠水解消案として県で3案ほど検討しており、技術的には可能ですが、相当な費用がかかるという点が課題となっています。時間はかかりますが、どのような方法が、実現性が高いかということを検討していきたいと考えています。

○米騒動100周年に向けて、市としての対応について（まちづくり）

来年は米騒動発祥100周年だが、市として何か事業を考えているのであればお聞かせ願いたい。そしてできることなら恒久的な利用をしていきたい。大町として少し知恵もあるが、相談させていただきたい。

（村椿市長）

米騒動について、市として事業を考えていますが、予算確定前なので具体的なことまでは検討できていません。日本史の上でも大きな位置づけをもった出来事であり、そのことを物語る場所も現存しているので、ぜひこれらを活かし、市外や県外へも発信していける取組みをしたいと考えています。

恒久的な利用については難しい面もありますが、米騒動から100年ということを契機として米騒動と魚津を結びつけて発信していけるようなことに繋がる調査等をしていきたいと思えます。最終的な利用としては、例えばこの場所を文化財として指定するといったようなことも考えられますが、民間の所有者がいて一方的な構想を練るわけにはいかないので相談が必要となります。できるだけ大町の歴史全体の中でしっかりとした核となるような取組みにしていきたいと考えています。

○高齢者が集える場所の設置について（まちづくり）

高齢者が集える場所として「いきいきサロン」があるが、集まるのは月に1回程度である。

高齢者の方もいろいろな場所で話をしたり近況を報告したりと気軽に「ただいま」をいう感覚で集える、そして併せてこどもたちも集ってこられるような場所の設置を考えているかお聞かせ願いたい

(村椿市長)

「いきいきサロン」について、選挙の公約で市内の各地区に健康づくりのための拠点になるような場所を設置できるよう進めていきたいということを挙げました。食と運動を通じた健康づくりをしていきたいと考えていますが、この背景には平均寿命だけでなく健康寿命を延ばしていきたいという思いがあります。平均寿命は延びているが健康寿命は延びていないので健康に長生きできるような取組みにしていきたいと思います。そのために各地区にそういった場を設置していきたいと思いますが運営の仕組み等をどうしていくかという課題があるので、その点を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

○中央市街地の活性化について（まちづくり）

人口の問題そして中心市街地の活性化について感じたことを話したい。

中心市街地と考えている大町地区、村木地区における人口は、それぞれかつての7,000~8,000人から激減し今は3,000人程度である。また、高齢化についても両地区は65歳以上の高齢者の割合が40%を越えており、2人に1人は高齢者という現状になっている。空家も増えてきており、住みやすい街にしていかなければ健康づくりや医療費の問題の解決の糸口が出てこないと考えている。

大町地区では大型ショッピングセンターではなく、歩いて行けるぐらいの場所に商店があったり、公共交通機関として電鉄があったりすることが住みよさになっている。課題を解決するためには協働して考えていかなければならないが、市の方向性についても伺いたい。

(村椿市長)

中心市街地のまちづくりの問題については同じ思いを持っていますが、一挙にまちを造りなおすという議論をするのは難しいと考えています。全国的にはリノベーション(改修)という動きがあり、このような取組みを行っていききたいと考えています。

リノベーションをしたいという方がいた場合に、周りがどれだけ理解をしてくれるか、またどういった方々を迎え入れるかといった体制づくりが重要な要素だと思う。全国的にはシャッター街だった地域が特色を持った街に生まれ変わった例はたくさんあります。そのときのキーポイントは人であり、やる気、情熱を持った人とそれを応援する人たちがいないと前に進みません。今年考えているのは「リノベーションの学校」であり、ものを造るのではなく人を育てるということに重点をおいてやっていきたいと思っています。地元の人を育て、地元以外からそういった人を受け入れることで新しい取組みができます。それを見守り応援する地域づくりをしてほしいと考えています。一挙にはできないが、まずは、一箇所、そして二箇所という動きができるようにリノベーションの学校の準備をしています。すぐに効果は出ず、10年20年かかるかもしれませんが、今始めなければ何も変わらないといった思いを持って新しい取組みを進めていきたいと考えています。

○荒町・馬出町の火災の跡地について（まちづくり）

平成 25 年に発生した荒町、馬出町の火災の跡地がそのままになっている。火災で亡くなった方や黒部、滑川に転出した方々もおおり、その場所の人口が減少してしまった。増やしたいとは思いますがうまくはいかない。市としてこの場所の利活用としての方策等を考えているのかどうかをお聞かせ願いたい。

(村椿市長)

荒町、馬出町の問題は、条件や環境が整わないというのが現状であります。ただ、きれいになればいいという訳ではないと思っています。緊急車両等の防災面を考慮した道路の整備はもちろん必要ですが、雰囲気がとてもよい路地も多く個性、特色を残したまちづくりをしていきたいという思いはあります。この個性、特色を一度取り払ってしまうと取り戻せなくなるので大事にしなければなりません。現段階で妙案はありませんが、一緒に考えていきたいと思っています。

市長が言われたように、歴史があり雰囲気もある道路なので単に道路を広げることには賛成していないが、防災面等を考慮した道路の整備が必要という話も聞いている。しかし、市の財政が厳しい中でそこにお金を使う必要があるかという意見もある。我々としては、個性、特色を残していきたいという市長の思いには賛成である。

(村椿市長)

道路の話については、全てが昔のままでいいというわけではなく、特色のある景観を大切にしながら生活の安全に配慮した、バランスのとれた整備をしていきたいと思います。

○子ども遊び場について（子育て）

若い方から滑川の児童館のように屋内で遊べる場所が欲しいという話を聞く。学校の跡地等を利用して子どもも老人も集えるような施設を作っていくのはいいことだと思う。

今は何でも便利になってきているが、昔からのよさというものを残していきたい。教育環境のコンピュータの話もそうであり、そういったものに頼りすぎると人間性という点で何か足りなくなるのではという心配をしている。

(村椿市長)

子どもの遊び場については、昨年度に育児休暇中の職員がこの問題についてグループで検討をし、保護者にアンケートを取ったり、滑川の児童館の利用実態を調べたりという取り組みを行いました。その結果、特長ある屋内で遊べる施設には、人を集める力があり、交流の場になるということが分かりました。

また、小学生が利用できる児童センターや公民館の環境は充実しているという反面、未就学児が利用できる場所がないという分析結果も出ており、未就学児が、そして土日でも利用することができる施設を作りたいという提案内容でした。

財政事情もあり、すぐにそういった施設を設置するということはできませんが、提案だけで終わらせたくはなく、特色を持った場を整備するため、パパママプロジェクトというものを進めています。学校の跡地を利用するという考えはもちろんあるが、そこだけにとらわれず考えていきたいと思っています。

○住吉小学校の図書室について（教育環境）

住吉小学校を建て替えるにあたり設計の段階で図書室が2階と3階に分断されるという話を知人から聞いたが、教育環境を考えて設計については工夫してほしい。

(村椿市長)

住吉小学校については、不便にならないような視点を持って設計を進めていくようにしたいと思います。

○よつば小学校の駐車場不足について（教育環境）

よつば小学校ができると運動会等の行事の際に駐車場が不足すると思うが、市としてどうしていくのか伺いたい。例えではあるが、大町小学校の跡地に本江の大阪屋ショップを立て替え、大阪屋の場所を駐車場とするという考え方もある。そうなった場合、大阪屋の建物を利用して児童がのびのびと過ごすことができたらいいなと思う。

(村椿市長)

駐車場の規模をどれくらいにするかということはとても難しい問題です。現実問題としてはいろいろ制限がある中で、現状でも不足している駐車場を工夫して拡張していけるよう検討していきたいと思います。

○魚津市の空家情報について（まちづくり）

市長から、若い人をどのように取り込むかといった話があったが、民間企業もどのようにして新しい人材に来てもらうか頭を悩ませていると思う。魚津や富山でブースを設けていたときに、魚津で働きたいという他府県からの人がおり、住居を探す方法としてインターネットを利用していた。魚津で働くにあたり、魚津、黒部、滑川を調べた結果、不便であっても安いという理由で滑川に決めた。今は皆インターネットを利用するが、魚津では空家情報を出しているかどうか聞きたい。

(村椿市長)

十分かどうかは別の話になりますが、空家の情報は出しています。10年ほど前から空家情報バンクという取り組みをしていますが、水準や情報の示し方等について改善点があり、より時代に即した魅力的で的確なものにしていきたいと思います。全国的にも進んでいる自治体もあり、その情報から移住に結びつくのは100件あるうち1件あるかどうかというレベルかもしれませんが、そういう取り組みを地域と協力してやっていきたいと考えています。

○魚津市の市民税について（まちづくり）

魚津市と滑川市の市民税について魚津は高いと聞いたことがあるが、実際はどうか教えてほしい。

(村椿市長)

市民税については全国同じ税率ですが、固定資産税の税率は市町村によって違います。魚津市は住みよさランキングにも表れているとおりに便利な場所であり地価が高くなりがちなどところはあります。税率の違い、理由等を分かりやすく伝えるための取り組みも始めようとしています。

○中心市街地住居の補助金について（まちづくり）

富山市では中心市街地に住むと補助金が出るがそういったことは考えていないか。

（村椿市長）

インセンティブについてはいろいろな方法があると思いますが、どういう内容であれば理解を得られるかを見定めなければ、不満が出ます。この地域に人を呼び込むためにどうやっていくかということを考えなければならないと思います。

○地域からの他市への転出について（まちづくり）

若い方々は結婚してしばらくはこの地域にいたとしても、家を建てるとなると滑川など別の場所に移ってしまう。このことについてどう思うか。

移っていく人も、この地域への愛着等がないわけではないが、結局安い方へ行ってしまふ。

（村椿市長）

地域の方々にも危機感をもってもらい、不平等感等はあるかもしれませんが、地域の方々が見込めるような内容で、どうしたら人を呼び込めるのかを考えるのが我々の役目だと思います。

○市の空家対策について（まちづくり）

魚津市の空家情報バンクの水準は低く魅力がない。

大町地区に関していえば高齢化率が高く、若い方が少ない。若い方々を連れてきてほしいと言われても、逆に若い方々は家を建てて市外や郊外へ移ってしまう。空家対策としては、こういうリノベーションはどうかという案を募るコンペを開催したり、市が空家を買って、若い方向けにリノベーション、リフォームしたものを入札してもらったりなど、変わった取組みをしていただきたいという思いがある。

大町も地域振興会を中心に活発に活動しているが、現役の方々がいなくなったときに若い方が育っていない、またはいないと地域振興会自体がどうなっていくのかということを見ると、地域だけに若い人を呼び込む努力をしてほしいというのではなく、強力な後押しをしてほしい。

（村椿市長）

地域だけにやってほしいというわけではなく、協力して外から呼び込む取組みをしたいと思っています。空家の活用については、活用方法やアイデアを募りコンペ等を行っていきたいと考えています。空家を市が買うというのは、現実問題としてはハードルが高いですが、例えば若い方が住むための住居という特定をして、市が買ったものを貸し出すといったことはできるかもしれません。ただその場合には、税を使って若い年代の方々を応援していくという合意が必要となります。

○税金に関する説明について（まちづくり）

税金の話となるが、営業所が滑川にあるので話を聞くが、魚津から滑川に移って働く方がいる。滑川は土地が安いので、滑川＝安いというイメージがあるが、実際に生活してみるとそれほどではないという意見も聞く。さきほどあった固定資産税等について具体的に説明するといったことが必要だと思う。税金の使い方についても、どういった用途で使われているのかという意識が少ないと感じている。また、市も税金の使い方について、節約できるところはする等市としての努力も必要だと思っている。市外から来ている魚津市の職員もいると思うが、市全体として取り組んでいくという気持ちでやってもらいたいと感じている。

(村椿市長)

今年度の始めごろから「財政の見える化」を進めようとしてきており、市民の代表の方を交えて魚津市の財政状況を考えていくという会も立ち上げましたが、皆さんにお伝えできるところまではいっていません。情報を増やしすぎると分かりづらくなるので、現状市がどういったところに重点的に予算を充てているのか、今後どう変わっていくかということを知りやすく伝えたいと思っていますので、もうしばらく待ってもらいたいと思います。

○英語教育について（教育環境）

小学校から英語教育を推進していくという話があったが、今後AIの時代になり、同時通訳もできるようになっていくと思われるので、今子どもたちに英語を学ばせるのが本当に必要か感じる。それよりも、日本について学んでほしい。海外で生活の経験をしたが、英語を話せないということよりも日本について知らないということが困った。そういうことを考えてやっていただきたい。

(村椿市長)

英語を流暢に話せたとしても、日本人として日本のことをしっかり伝えられないと意味がないということは共感します。ただ、英語教育は、英語を話せるようになることを目的としているのではなく、異文化に接したときに平たくいえばひるまないようなことを目指していると考えてもらいたいと思います。

また、国は今後英語教育を始めていきますので、それを待つのではなく少しでも早く取り組んでいけば子どもたちにとってもよいのではないかと思います。

○ガード下の道路について（まちづくり）

ガード下の道路については、費用をかけて整備するのではなく、大雨のときだけその信号を全部赤にして通行止めにすればいいだけの話ではないか。

(村椿市長)

全体の経費効率として何が効果的か、そして万が一のときの安全のためには何がいいのかということを考えていきたいと思っています。

○自分と異なるものに接する経験について（教育環境）

異文化を体験するための施設として重度障害者施設等、自分たちと違う文化、違う人たちと定期的に接し、違う場所に入る大変さを経験した。今の小学校を見ていると、都合の悪い子は隔離して別の場所で育てようという動きになっているが、それがそもそもおかしいのではないか。その点についてどう考えているか聞きたい。

（村椿市長）

自分と異なるものに対して壁を作ってしまうということをどのようになくしていくかということが大事だと思っています。

○リサイクルの収入について（その他）

リサイクルを清掃公社に委託していると思うが、リサイクルの収入は市へ入らないのか。もし入っているのであれば市民の方々へどう反映されているかお聞かせ願いたい。

（村椿市長）

全額市に入っていて、福祉や教育、まちづくり等いろいろな分野に使っています。